



証券コード 1981

# 第70期（平成30年3月期） 第3四半期決算のご報告

平成30年 2月14日



**株式会社協和日成**

<http://www.kyowa-nissei.co.jp/>

ISO9001:2015 認証登録

## ■ 投資家のみなさまへ

平素より、当社グループの業務に格別なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

協和日成グループは、ガス、電気、水といった人々の暮らしや産業に欠かすことのできないライフラインを支える総合設備工事会社です。当社グループは、東京ガスの指定工事会社として東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県の首都圏全域をカバーするとともに、札幌および静岡に支店を設置し、お客さまのご要望にきめ細かく対応させていただいております。

「私たちは常に進化する強い意志を持ち、心一つにして一流に向かい羽ばたき続けます。」というスローガンのもと、安心と心地よさを提供し、豊かな未来のために貢献してまいります。

また、企業の社会的責任の重要性を認識し、コンプライアンス経営に努めると同時に、環境への取り組みにも力を入れ、お客さまにご信頼いただけるパートナーとなるべく、挑戦してまいります。

さて、このたび第70期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の第3四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日）の業績の概況と決算数値が出ましたので、ここにご報告させていただきます。

これからも皆さまのご期待に応え、「安心・安全・信頼される企業グループ」であるべく社業発展に向けてまい進していく所存でございますので、引き続きましてのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



株式会社 協和日成

代表取締役社長 北村 眞隆

## ■ 企業スローガン

私たちは常に進化する強い意志を持ち、  
心一つにして一流に向かい羽ばたき続けます。

## ■ コーポレートシンボル



● 青：技術力 ● 緑：環境 ● 赤：情熱

2つの翼は環境と技術力、お客様と協和日成を象徴し、ともにより良い明日に向かって成長してゆく姿と未来に羽ばたくイメージを表現しています。

また、赤い円は情熱とエネルギーを表し、マークは全体として「人」の形を連想させます。常に人々の暮らしを支える協和日成が、社員一人ひとりの力を結集し、新しい時代を切り拓いてゆく姿勢をアピールしています。

## ■ 企業理念

存在意義 『豊かな暮らしのために』

私たちは、安心と心地よさを提供し、豊かな未来のためにライフラインを支え、社会に貢献します。

経営姿勢 『お客様から選ばれ続けるために』

確かな技術と品質でお客様に安心をお届けし、社員が安心して働ける職場環境をつくりまします。

きめ細かな感性でお客様の信頼に応え、ひとを尊重しお互いを信頼し合える企業風土をつくりまします。

行動規範 『羽ばたき続けるために』

私たちは常に感性を磨き、感じ・考え、自ら行動します。

## ■ 企業ビジョン

たゆまぬ研鑽を行い、優れた人間力と高い現場力でサービスを提供する真の総合設備工事会社を目指します。

## ■ 目標とする経営指標

当社は、企業の総合的な収益力を示す指標として、売上高経常利益率を重視しており、売上高経常利益率3.0%以上の安定的な達成を目指しております。

## ■ 事業概要

■ 当社は、主に東京ガス株式会社のガス工事業を主体にし、そのほか建築・土木工事業、その他事業を営み、総合設備工事会社として事業活動を展開しております。

### ◎ガス工事業

- \* ガス設備工事  
(屋内配管)
- \* ガス導管工事  
(屋外配管)



### ◎建築・土木工事業

- \* 建築工事
- \* 給排水衛生設備工事
- \* 空気調和設備工事
- \* 電気管路洞道埋設工事
- \* 上下水道工事
- \* 土木工事



### ◎その他事業

- \* 各種ガス機器販売・  
取付・修理・安全点検
- \* 収納業務
- \* ガスメーターの  
開閉栓業務



## ■ 中期経営計画『Break with Convention2017』について（1）

- 当社は企業理念・企業ビジョンに掲げた基本精神にのっとり、2015年度～2017年度（第68期～第70期）の3カ年にわたる中期経営計画を策定しております。

企業ビジョンでは、長期的な視野で見た時の当社のあるべき姿が描かれていますが、そのあるべき姿に向けて、当社が企業として存在し続け成長していくために、これまでの事業環境を検証し、策定された前中期経営計画を正確に総括するとともに、今後3年間における社会・経済・市場といった外部環境と内部環境を十分に考察、分析することによって、何をなすべきかを中期経営計画に反映しております。

- 計画では、機会を活かし、当社の強みにどのように磨きをかけるか、また予想される脅威にいかに対処すべきかそれぞれ課題を認識し、真の総合設備工事会社となるべく、重要テーマを掲げ、既成概念や慣行、現状のビジネスモデルに捉われない戦略を遂行することによって、より強靱でしなやかな企業体質を獲得することを主眼に置き、中期経営計画を *Break with Convention 2017* (*Break with Convention* : 慣行からの脱皮) としております。

- 過去6カ年の事業環境およびそれぞれに策定された中期経営計画を総括して、抽出された課題と目指すべき姿に対しての経営戦略の概要は図のようになります。



## ■ 中期経営計画『Break with Convention2017』について (3)

### 組織構造目標

#### ① 業界構造の変化に対応して柔軟に最適組織を構築するための環境整備

—より無駄のない組織により、収益の効率を上げるための組織改編力向上を目指す。

#### ② 周辺事業領域進出に向けた組織基盤の確立

—下流域に止まらず、中流域への参入機会を捉える（特に、都市ガス小売り自由化を睨んで）。また、現在の事業フィールドである下流域においても、様々なエネルギーソリューションやスマート化に対応できる組織へのレベルアップを図る。

#### ③ 管理部門における機能強化及び販・攻・守のネットワーク化による一元化を目指す

—今後予想される様々な法改正や顧客企業の諸規則の改訂等に対応するための管理組織機能の強化を図りリスクマネジメント力を向上する。  
—また、営業～受注～発注～施工～落成に至る過程において、生産部門と管理部門がネットワーク化され、一元的に対応できる組織を目指す。

### 企業規模・設備投資目標

#### ① 生産拠点の効率的な更新

#### ② 技術力の維持・向上・拡大に向けた恒常的教育機関の設置

## ■ 中期経営計画『Break with Convention2017』について（4）

---

### ■ 経営戦略

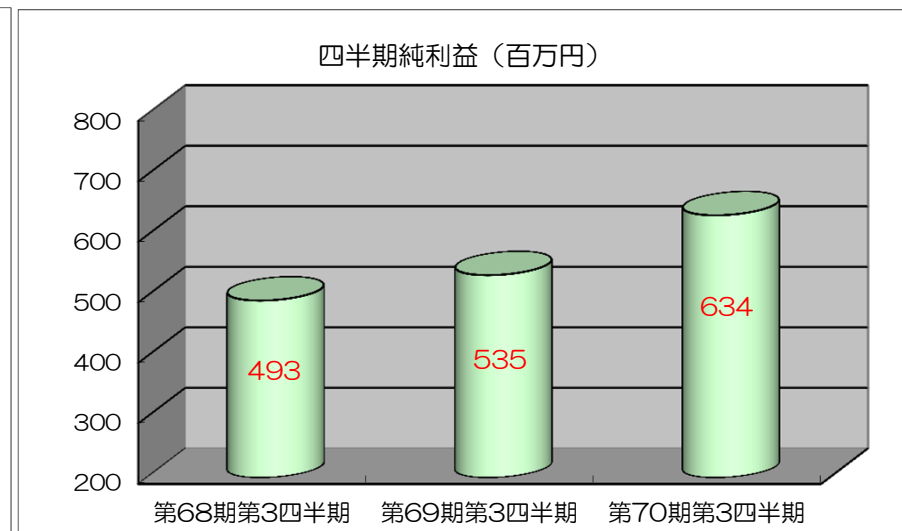
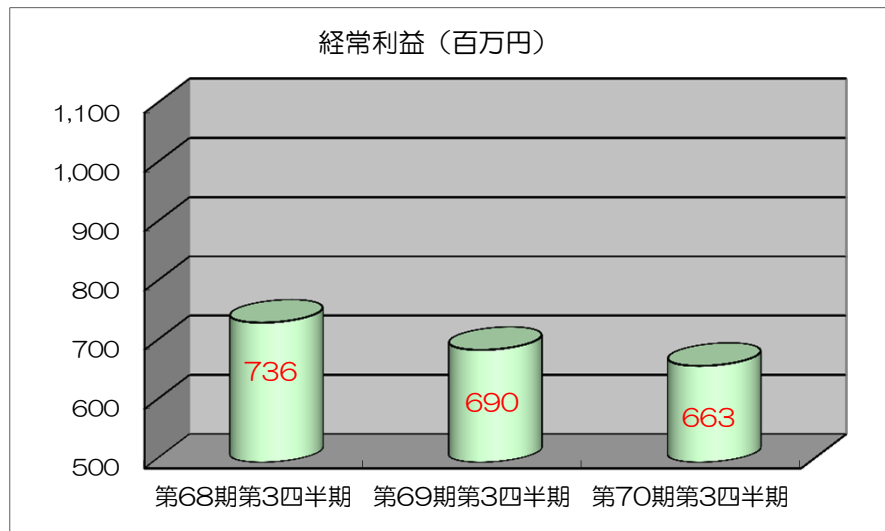
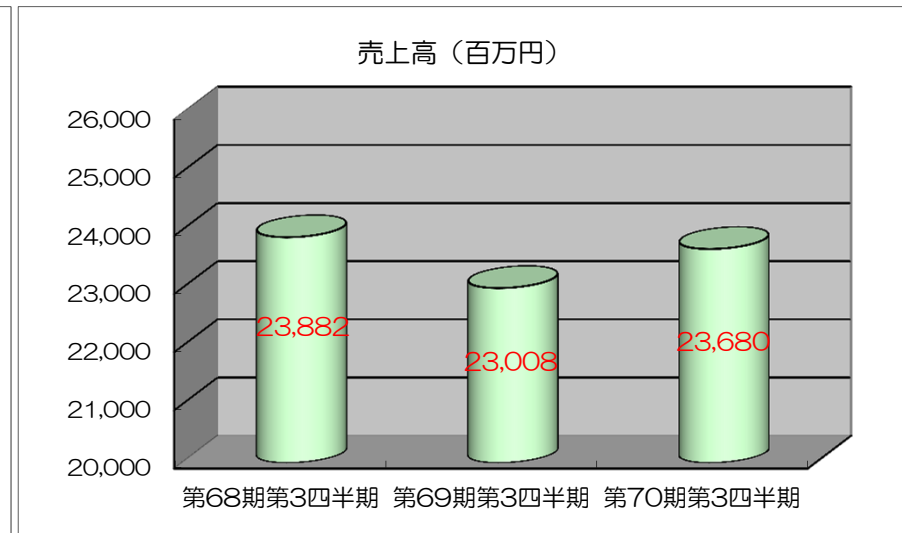
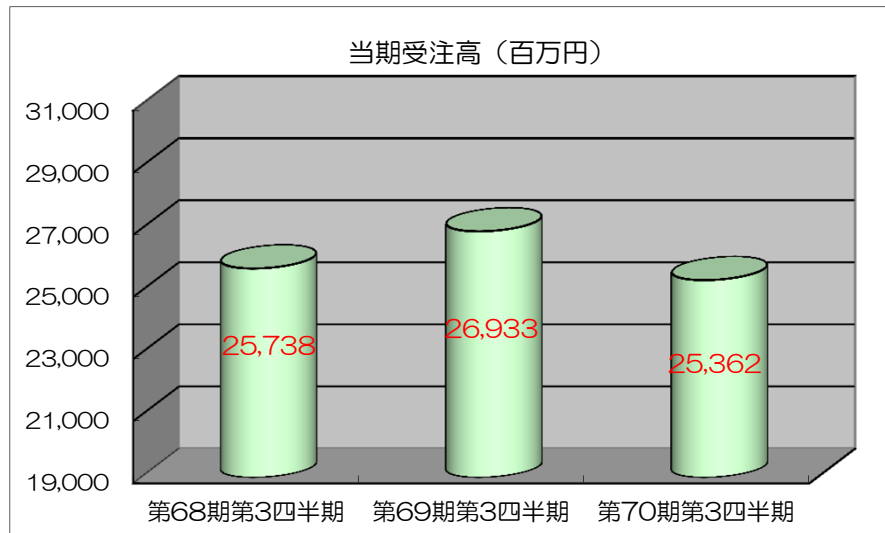
- （1） 定量的・継続的な人材の確保
- （2） 生産拠点における社員の多機能化と協力会社強化（規模、企業体質）
- （3） 資本提携・業務提携を視野に入れた業容拡大の実施
- （4） コーポレート本部における法対応体制の充実・強化と生産本部との連携フォーメーションの構築
- （5） 社員の活性化とコンプライアンス浸透を図るための施策及び体制の強化
- （6） CSR調達制度の導入と定着化
- （7） 総合的なIT活用の構築
- （8） IR施策の充実強化と企業価値評価に資する経営指標の検討
- （9） 健全な財務基盤の維持と経営管理機能の向上
- （10） 新規事業領域への進出

## ■ 業績等の概要

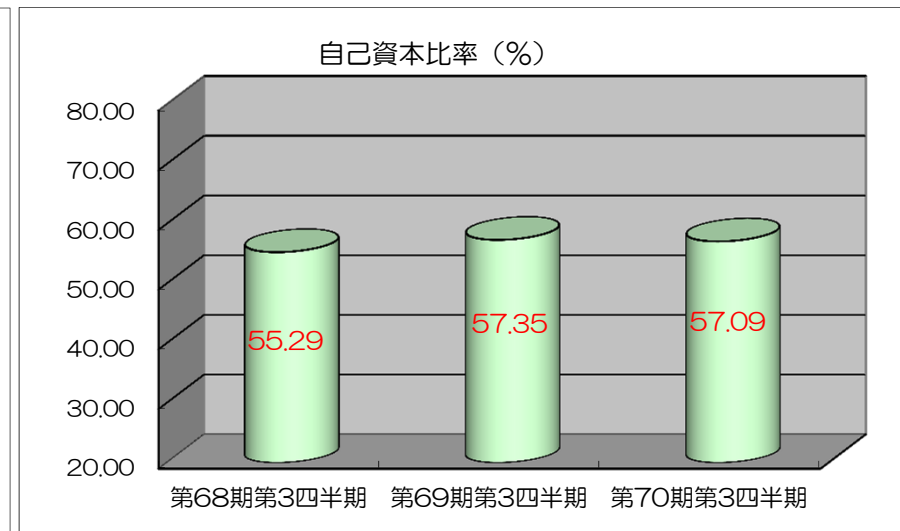
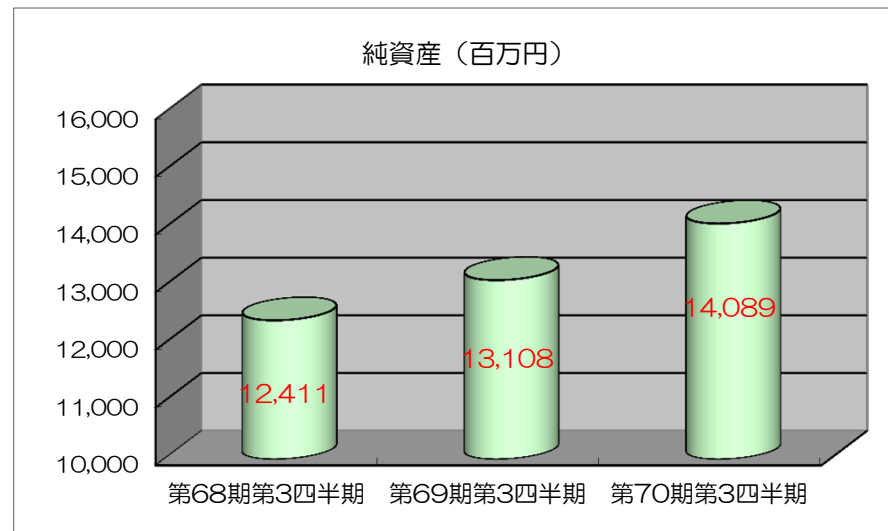
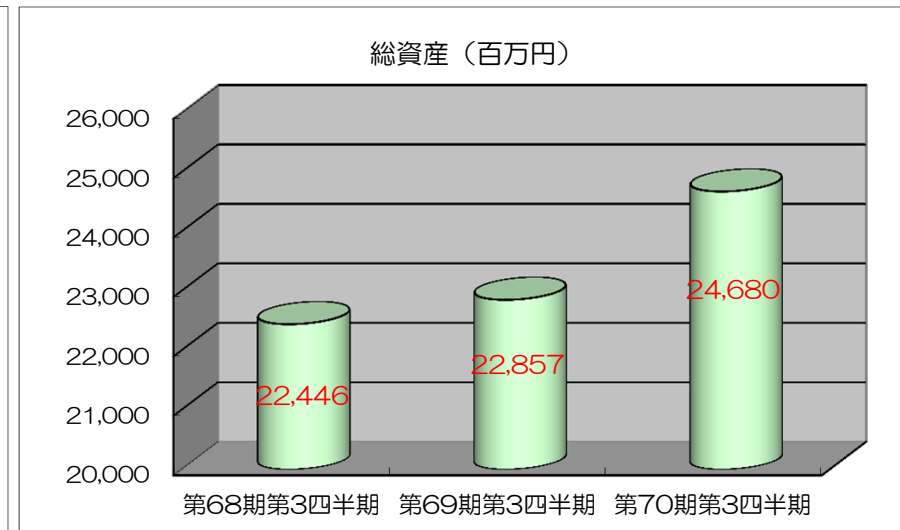
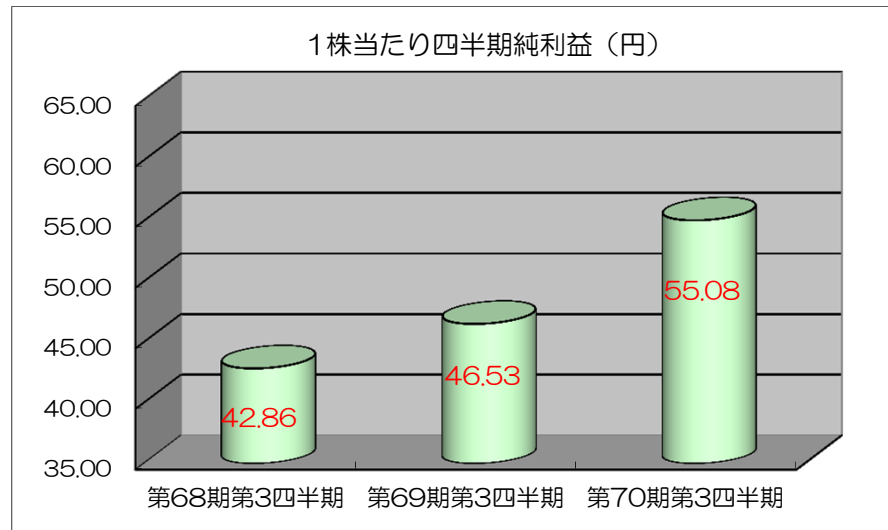
- 当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、政府や日銀による積極的な経済・金融政策を背景に、企業収益は好調を維持し、設備投資も緩やかに増加を続けるなど、いざなぎ景気を超える景気拡大基調で推移いたしました。一方で、個人消費におきましては、人手不足に伴う雇用情勢の改善を反映した賃金所得の増加がみられるものの、社会保険料などの負担増、年金・介護費用などの将来不安から家計の節約志向は根強く、低調なまま推移いたしました。
- このような経済環境のもと当社におきましては、ガス設備新設工事の受注が堅調に推移したほか、主要取引先であります東京ガス株式会社の設備投資計画に伴う受注、新築建物に関連した給排水衛生設備工事および東京電力パワーグリッド株式会社の設備投資計画に伴う管路埋設工事の受注についても堅調に推移いたしました。この結果、当第3四半期累計期間における業績は、売上高23,680百万円（前年同期比2.9%増）となりましたが、ガス導管工事において、原価率が上昇したことにより、営業利益573百万円（前年同期比12.6%減）、経常利益663百万円（前年同期比4.0%減）となりました。しかしながら、投資有価証券売却益287百万円を特別利益に計上したことにより、四半期純利益は634百万円（前年同期比18.4%増）となりました。



## ■ 財務ハイライト (1)



## ■ 財務ハイライト (2)



## ■ セグメント情報（1）

### ■ ガス工事事業

ガス設備新設工事においては、一部工事で完成が第4四半期以降となる案件が発生いたしましたが、集合住宅給湯・暖房工事は堅調に推移いたしました。また、ガス導管工事においても、主要取引先であります東京ガス株式会社の設備投資計画に伴う受注が堅調に推移したほか、静岡ガス株式会社や北海道ガス株式会社といった他エリアのガス事業者の設備投資計画による受注も堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は20,588百万円（前年同期比1.3%増）となりました。しかしながら、ガス導管工事において、繁華街の工事が増加したことによる原価率の上昇、および都心部に加えその他のエリアにおいても難工事が増加し、進捗が計画通りに進まなかったことによる原価率上昇等により、経常利益は759百万円（前年同期比4.6%減）となりました。

### ■ 建築・土木工事事業

水道局関連工事や電設保守工事においては厳しい受注環境が続いており、既築マンションをターゲットとしたリノベーション工事（排水管ライニング工事を含めた改修工事）につきましても、建物管理会社やマンション管理組合等から安定した受注を確保することができたものの、完成が第4四半期以降となる案件が多く、当第3四半期における売上計上には至りませんでした。しかしながら、新築建物に関連した給排水衛生設備工事が堅調に推移したほか、東京電力パワーグリッド株式会社の設備投資計画に伴う管路埋設工事において前年度からの大型繰越案件が完成するなど堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は2,630百万円（前年同期比13.7%増）、経常損失7百万円（前年同期は32百万円の経常損失）となりました。

## ■ セグメント情報（2）

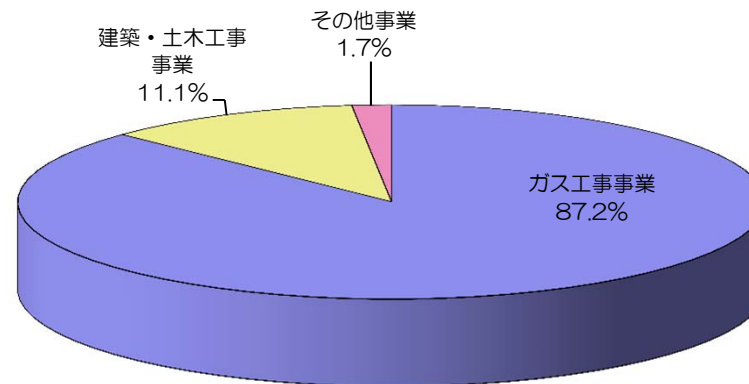
### ■ その他事業

機器販売部門においては、増員を図り、リフォーム工事専従担当者の設置による効率的なリフォーム対応および一般ガス機器販売における担当エリア需要家との接点機会の継続的な増強を図ったことによりリフォーム工事、一般ガス機器販売ともに増加いたしました。

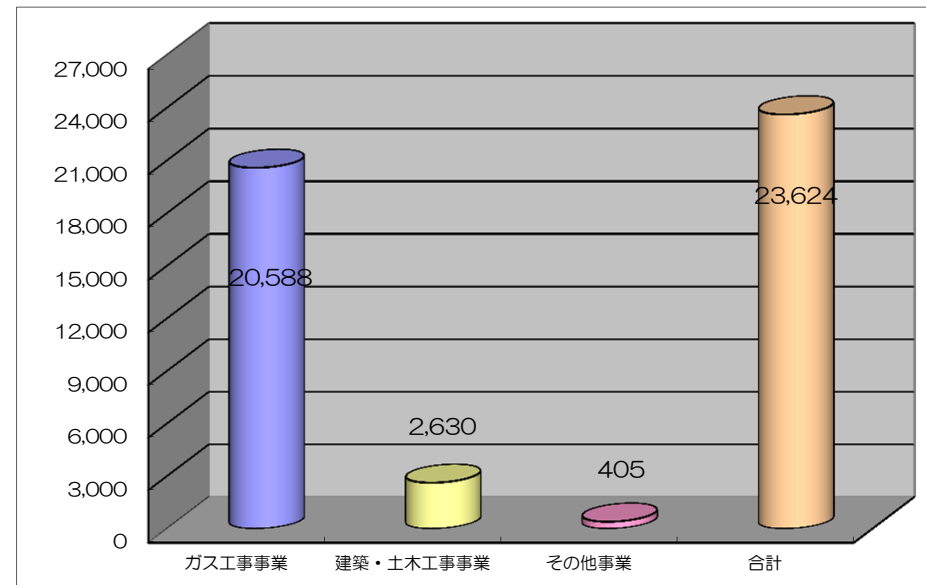
この結果、売上高は405百万円（前年同期比32.7%増）、経常損失39百万円（前年同期は44百万円の経常損失）となりました。

## ■ セグメント別売上高構成比と売上高

セグメント別売上高構成比



セグメント別売上高（百万円）



(注) セグメント別売上高構成比およびセグメント別売上高には調整額56百万円は含んでおりません。

## 第70期 第3四半期貸借対照表 (要旨)

### 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前第3四半期 会計期間末 (平成28年12月31日)	当第3四半期 会計期間末 (平成29年12月31日)	科目	前第3四半期 会計期間末 (平成28年12月31日)	当第3四半期 会計期間末 (平成29年12月31日)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	15,965	16,674	流動負債	8,216	8,225
固定資産	6,891	8,005	固定負債	1,532	2,366
有形固定資産	3,846	4,977	負債合計	9,749	10,591
無形固定資産	60	49	(純資産の部)		
投資その他の資産	2,985	2,979	株主資本	12,426	13,456
			資本金	590	590
			資本剰余金	1	1
			利益剰余金	11,870	12,900
			自己株式	△35	△35
			評価・換算差額等	682	632
			純資産合計	13,108	14,089
資産合計	22,857	24,680	負債純資産合計	22,857	24,680

## ■ 第70期 第3四半期損益計算書 (要旨)

### 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第3四半期累計期間 (自 平成28年4月 1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成29年4月 1日 至 平成29年12月31日)
売上高	23,008	23,680
売上原価	20,624	21,305
売上総利益	2,384	2,375
販売費及び一般管理費	1,728	1,801
営業利益	656	573
営業外収益	92	103
営業外費用	57	13
経常利益	690	663
特別利益	120	287
特別損失	12	0
税引前四半期純利益	799	950
四半期純利益	535	634

## ■ 対処すべき課題について（1）

- 当社を取り巻く中長期的な事業環境は、主要取引先の設備投資計画については引き続き堅調に推移することが見込まれるほか、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けた首都圏の再開発や宿泊施設の建設、国土強靱化基本計画によるインフラ整備事業に伴う需要も良好を維持するものと予想しております。また、少子高齢化等により、長期的には減少傾向にある住宅着工戸数については、昨年実績に比べ若干減少することが予想されるものの、一定レベルの着工数が見込まれているほか、リフォーム・リノベーション市場が拡大傾向で推移するなど、比較的良好な受注環境で推移するものと想定しております。
- 一方で、エネルギー業界においては、2016年の電力小売全面自由化に続き、2017年4月より都市ガス小売全面自由化がスタートしたことにより、電力事業者とガス事業者によるエネルギーの大競争時代が幕を開けました。今のところ、都市ガス事業に参入する企業は限られているほか、保安責任は導管事業者が担保することとされているため、新たにガス工事分野に参入する異業種企業の脅威は低いものと判断されますが、電力事業者やガス事業者のビジネスモデルは大きく変わり始めており、当社の事業環境もその影響を少なからず受けることが想定されます。



## ■ 対処すべき課題について（2）

- このような状況において、当社が存在し続け、成長していくためには何を重要テーマに掲げ、どのような戦略をもって事業を推進するべきかについて、2017年度を最終年度とした3か年の中期経営計画を策定しております。
- 中期経営計画においては、大きく変化する事業環境の中において、企業ビジョンである真の総合設備工事会社を目指すためには、企業グループとしての社会的責任を果たすという意識レベルやコンプライアンスマインドを継続的に向上させていくことをベースに、既存事業領域におけるおおむね堅調な受注環境に対応するための経営資源の確保と有効活用に取り組み、より安全に、より高品質で無駄のない収益を生むビジネススタイルを確立することとしております。
- 顧客ニーズの多様化や社会から要求される企業責任の高まりなど事業環境の変化に対し、ガバナンスを損なうことなく、迅速かつ機動的な対応が企業に求められているなか、昨年6月、不適切作業による着火事故を発生させてしまいました。これを教訓とし、2017年4月より、内部監査部門を強化するとともに、管理部門・生産部門のすべてにおいて集約・統合するなど、組織を大きく改編いたしました。各組織の機能を最大限に発揮するための施策を立案し実践する一方で、事業運営の前提となるコンプライアンスについて、コンプライアンスマインドのさらなる浸透を図るとともに、モニタリング機能を強化することも重要であると考えます。

## ■ 対処すべき課題について (3)

- また、電力・ガス小売全面自由化というエネルギー業界の大競争時代を迎え、ライフラインにかかわる企業として、より多様で付加価値の高いサービスを提供するために、既存事業はもちろん、多様化するニーズに対応するための提案力、技術力をさらに向上し、会社機能の幅を広げることも重要であると認識しております。
- 経営管理面では、リスクマネジメントの観点や企業価値向上を目指すために、労働環境の改善策を検討することが重要な課題であると考えております。また、建設業法をはじめとした各業界規制法、会社法、金融商品取引法、民法等に対する企業法務体制の整備や株主・投資家をはじめとするすべてのステークホルダーを念頭に置いた、事業戦略や財務・資本戦略、IR戦略に取り組むことも喫緊の課題であると認識しております。
- 今後につきましても、これら重要テーマに対する各事業戦略と戦略を支える諸施策を着実に実施していくとともに、目まぐるしく変化する経済、環境、社会の動向を的確にとらえ「信頼される企業グループ」として社業発展にまい進していく所存でございますので、株主の皆様におかれましては、引き続きましてのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ■ 業績予想について

- 平成30年3月期の個別業績予想につきましては、主要事業における受注が順調に推移しており、今後の受注についても堅調であることが見込まれるため、平成29年5月12日付の「平成29年3月期決算短信」で発表いたしました個別業績予想に変更はありません。

平成30年3月期（第70期）の個別業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円	銭
通 期	35,140	1,240	1,280	850	73	83

※上記に記載されている予想数値は現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確定な要素が含まれています。実際の業績等は今後の様々な要因によって予想と異なる場合があります。

## ■ 配当予想について

- 当社は、株主の皆様に対する適正な利益還元を経営の最重要政策の一つとして認識しており、経営基盤の強化に留意しつつ、業績、経営環境、成長戦略に基づく事業展開に備えるための内部留保の充実などを総合的に勘案し、長期的かつ安定的な配当を維持・向上することを基本方針としております。
- 当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回としており、配当の決定機関は、株主総会であります。
- 内部留保資金につきましては、経済環境の変化に備えた財務体質の強化ならびに収益確保に向けた資金需要に備えてまいります。

配当の状況

	1株当たり配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	年 間			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
第68期	-	-	-	15 00	15 00	172	198	1.4
第69期	-	-	-	15 00	15 00	172	156	1.3
第70期 (予想)	-	-	-	15 00	15 00		203	

## ■ 概要

- 商 号 株式会社 協和日成 (KYOWANISSEI CO.,LTD.)
- 所 在 地 東京都中央区入船3-8-5 〒104-0042
- 電 話 03 (6328) 5600 (代表)
- 資 本 金 5億9千万円
- 事業目的
  1. ガス屋内外配管工事の設計施工管理
  2. 空気調和（温水式床暖房および一般冷暖房）設備工事の設計施工管理
  3. 給排水配管・衛生・給湯・消防・機械設備工事の設計施工管理
  4. 上、下水道・電気管路洞道・舗装・土木工事の設計施工管理
  5. 工場各種配管設備工事の設計施工管理
  6. 建築工事および電気工事の設計施工管理
  7. ガス機器・空調機器・給排水衛生設備機器の仕入れ販売ならびに保守管理業務
  8. 家庭用、業務用電気機器および通信機器の販売
  9. 業務用、家庭用家具の設計・製作・販売
  10. 内装仕上工事の設計施工
  11. 展示場等の什器・備品のリース
  12. 建築用資材の販売
  13. 造園工事
  14. 塗装工事
  15. 不動産の売買、交換または賃貸借の代理または媒介する事業
  16. 損害保険の代理業務
  17. 産業廃棄物の収集運搬業
  18. 郵便切手類の販売業務および印紙の売りさばき業務ならびに郵便小包（ゆうパック）の取次業務
  19. 電力販売の取次代理店業務
  20. 労働者派遣事業
  21. 前各号に付帯関連する一切の事業

株式会社 協和日成  
| S O 9001 : 2015 認証登録

〒104-0042  
東京都中央区入船3-8-5  
TEL 03 (6328) 5600 (代表)



ホームページURL <http://www.kyowa-nissei.co.jp/>  
(銘柄名：協和日成 証券コード：1981)

お問い合わせは [ir@kyowa-nissei.co.jp](mailto:ir@kyowa-nissei.co.jp) までお願いいたします

本資料は、当社の財務・経営等に関する情報提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。また、本資料に記載されております業績の見通しや計画などのうち、歴史的事実に基づかないものについては、将来の業績に関連する見通しが含まれております。従いまして、経済環境や業界動向により数値等が変動する可能性を含んでおり、現時点において入手可能な情報に基づいた予測であるため、これらだけに依拠して投資判断を下すことはお控えいただきますようお願い申し上げます。